

画面の中の言葉

市島中学校 3年 高見 春花

今、私たちの生活に欠かすことができないものであるインターネット。分からないことがあればすぐに調べることができたりなど、とても便利で私も頻繁に利用する。そして私の他にも利用している人、したことがある人は多いだろう。だが、こんなインターネットに対して思い浮かぶ印象は、「便利なもの」だけではない。もう一つは、「少し怖い」という印象だ。それは、インターネットが抱えるSNS上でのいじめ、誹謗中傷という闇の影響である。

誹謗中傷というものを意識し始めたのは、あるニュースを見た時からである。そのニュースは、ある芸能人が誹謗中傷を受け続け、自ら命を断ったというものだった。私はとても驚いた。信じられなかった。「ひどい」とか「どうしてこんなことを」とかそういった感情より先に私は、「言葉だけで人を殺せてしまうんだ」と感じた。「言葉は凶器にもなる」。この言葉を私は何度か聞いたことがあった。そんなわけない、と最初はその言葉を否定したり信じていなかった。でも、そのニュースを聞いて、思い知った。まさにこういうことだ、と思ったのである。

他にも、私がネット上での悪口、誹謗中傷で、怖いと思うところがある。それは、悪気はなくちょっとしたいじりやふざけて発信した言葉でも、文面だと伝わりづらいということだ。例えば、「バカ」とか「アホ」とか、そのままの意味では当然相手にとって良い言葉ではない。でもこの言葉は、言う人の表情や態度で変わると思う。言った人が笑っていたり、軽い感じなら、相手も笑って過ごせるだろう。では、文面だとどうだろうか。発信した人の表情は、当然分からない。どんな感情で、どんな態度で、どんなノリで発信したかも分からない。捉え方は、相手次第なのである。そしてこの捉え方によって言葉の重みは変わる。やがて相手を傷つける凶器になっていくのだ。深い傷を負い、自ら死を選ぶ人がいる。たとえ発信した人に悪気がなくとも、言葉だけでこんな悲しいことが起こりえるのだ。

私は、誹謗中傷している人に対して思うことがある。それは、「ずるい」ということだ。誹謗中傷している人たちは、いくら悪口を言っても身元は悪口を言われた人には分からない。好き放題言って、それで終わりだ。相手の気持ちも考えずに。この人たちが、こんなことを画面の中でできるのは、その本人を前にしていないからだと思う。本人の前で言うのと画面越しに言うのとでは全く違う。そしてもし本人を前にした時、

その人たちは同じようなことが言えるだろうか。言えない人が多いと思う。だから私は「ずるい」と思う。

誹謗中傷している人には自分のコンプレックスや辛いこと、大変なことなどからくるストレスを発散するために、悪口で攻撃するという人が多いそう。それは、自分の感情に任せた身勝手なものであり、許されないものである。こういった人たちはなぜ人を攻撃してしまうのか。それは、自分の言葉に責任を持てていないからだと思う。自分の言葉を受けて相手はどう思うだろう、と発信する前に立ち止まって考える。「言葉に責任を持つ」ということでとても大切なことだと思う。何気なく発信した言葉で相手を傷つけてしまった時、その人に悪気はなくとも、相手を傷つけてしまったのは、その人の責任になる。言葉の重みを知らないからこそ、責任が持てていないのである。

「言葉に責任を持つ」ということは、ネットの中の世界で特に大切だと思う。一人一人が、言葉の重みを知り、意識することで、いつか誰かの人権を傷つけてしまうようなことがなくなることを心の底から願っている。

私は、自分のスマートフォンを持っていない。友達と連絡をとったり、ゲームをしたりできるから、欲しいと思っている。

誹謗中傷を含めたインターネットの闇について深く考える前は、なぜ買ってくれないんだろう、と思っていた。でも今は違う。言葉に責任を持つことの難しさ、そして大切さを知った今、自分のスマートフォンを持ち、インターネットに触れることは、とても大変なことだということが分かったような気がする。だから、これから私は、常に自分の言葉に責任を持ち、何より人権を大切にしていきたいと思う。それができるようになってから、自分のスマートフォンを持ちたい。画面の中を笑顔で満ちあふれた世界にするために。